

56 継子話 (麦搗き・二十日月)

自分の子は大変可愛かったってね。麦搗かせたからね、あの、麦は昔は臼で搗きよったて。臼に入れて搗きよった。あれ、いくら搗いても皮剥けなかったって。だからもう、涙が出たから、疲れて涙が出たから、涙が出たところはね、麦の皮が剥けたって。

「ああ、こりゃ水掛けて搗くんだね」と言つて、あれから水掛けて搗いたて。

それにまた、

「今日の仕事は二十日月が上がるまで、月が上がるまで働かなければ夕飯あげないから」と言うたからよ。あの時も、神様がわかったのかなあ、前の日より早く上りよったって、月が。十九日の月よりはよ、早く上がった。そんな話やったが。ほんとか嘘かわからん。聞いたただだから。

類話

字伊敷 新垣ヨシ

